

第9回貨物運転士学習・交流会開催！

「第9回国労貨物運転士学習交流会」が6月28日～29日の日程で長野・上山田温泉にて開催され、西は広島から、東は青森まで広範囲にわたる職場からの参加があり、総勢36名の仲間が集い、情勢の把握と貨物乗務員の労働条件・貨物職場の実態を学習・交流する有意義な会議となりました。



会議は水戸運輸協・中野事務長の司会で進められ、冒頭、開催地の長野地本、太田委員長に参加いただき、「国鉄闘争は終わっていない。不採用問題では雇用の確保問題があるし、分割・民営化後の貨物・三島問題が残っている。雇用の確保が確定するまで気を抜かず、奮闘していく。」との、力強い挨拶を受けました。次に、主催者側を代表して東日本運輸協・木立議長からのあいさつでは、乗務員の労働条件の闘いに触れ、勤務プロジェクト会議が5月に行った学習会や運輸協

全国連絡会のアンケート調査でも明らかになった劣悪な労働条件に対して、旅客・貨物でも乗務員の基本的な要求「食う・寝る・トイレ」問題を少しでも改善していけるよう闘いを積み上げていくことと、JR東日本で提案されている検修の全面的な外注化問題についての現状が報告されました。



続いて、東日本本部から参加されている武笠執行委員・木村特別執行委員を紹介し、代表して武笠執行委員より5点にわたって情勢等の挨拶を受けました。



内容は、本日は不採用事件の和解締結日となっており、本部役員は全員そちらに参加している。雇用の確保問題は、今後の課題である。参議院選挙では、消費税と法人税減税をセットで導入というところが争点になっている。運輸取扱いが各社間バラバラで、この種の事故も出ている。東北新幹線新青森駅開業が今年12月4日にある。これによるダイヤ改正が、北海道・東日本・貨物のダイヤ改正が出される予定。国労の存亡をかけた闘い、組織拡大を是非貨物職場でも頑張っていたきたい。

その後、全国貨物協議会・奥村議長から春闘における貨物職場の闘いと本日の議題となる問題提起を受けました。

貨物は11年連続ペアゼロ、今年の定期昇給は半年遅れとなる。また夏季手当は1.58ヶ月支給の結果(国労の要求で、昇給分は後日支給)となった。

提起として、

(1)情勢をどう見るのかが大切 貨物会社の状況は2期連続の赤字決算。会社は、発足以来の最大の危機とし、背水の陣で経営体質を黒字化させるとしている。発足時から構造的矛盾を抱えてのスタートや、財務体質の

弱さからくる経営体質の問題。独自の発想で経営ができない体質、これらから言えることは、鉄道貨物輸送の発展には構造的な矛盾の解決以外には無い。

(2)ニューストリーム2011を施策として実行しているが、平成22年ダイヤ改正で関東支社はかなりの要員減(効率化)が行われた。

(3)運転士の効率化では、重要な柱としてコストダウンの推進と称し、昼間ダイヤ決定・乗務線区の拡大・勤務制度の改正により運用効率が上げられた。



これらの提起を受けて、討論に入りました。
平成22年3月ダイヤ改正についての問題点
関東支社における効率化施策の実施
線路が自前でないため、各会社間で保安装置等
の取扱いが違うことからくる混乱が生じている。
正しい報告を怠った場合の罰則がきつくなった。
また、正確な報告をしたため事故扱いとなった。
閉そく指示運転でも各社で違いがある。
貨物運転士が一番影響を受けている。
(間違えると即、事故扱い)



等々、様々な報告・意見が出されました。

各社またがりの運転をする貨物運転士にとって、大変な状況が浮き彫りにされました。
その後、休憩に入り夕食・交流会と続きましたが、職場の話となると話題は尽きず、深夜まで盛り上が
っていた部屋もありました。

二日目は職場の状況報告や意見・質問が出されました。

国交省が出した「動力車操縦者運転免許の取消等の基準の制定」について
貨物基地の統廃合で次回のダイヤ改正で大幅な要員減が出されるのでは
年休の失効が増えている。買い上げも年3日まで。

基準人員の定義は何か。公休・特休・年休を消化できる要員体制でなければおかしい
運転記録装置は、職場で議論になった。

平成採用が増え、職場によっては四分の三以上

職場の要員問題が解決。嘱託社員が職場に残ってくれているため。

新しい乗り継ぎ方式では、交流区間とDLは対象外となっている。

直下での事故扱いが厳しくなった。

まとめとして、中野幹事と全貨協・奥村議長から

貨物の効率化が進んできている中、乗務員の効率化も例外ではなく勤務が非常にきつくなって
きている。

基地の統廃合が進み、遠距離通勤問題も増えている。勤務に及ぼす影響も出ている。

車載の設備（保安機器等）が自動投入になれるよう要求も考えていく。

乗務線区が拡大してきている。アンケートによる要求作りを進めて出していきたい。

各支社ごとに点呼の実態が異なっていることも判明。要求化していく。



以上のまとめを行い、最後にJR不採用事件の和解がなされた今、残された課題
である組織拡大で、貨物からも最大限努力
して獲得していくことを全員で確認して終
了となりました。

参加者の皆さん、参院選挙も始まった中で
何かと忙しい中での学習交流会でしたが、
大変ご苦労様でした。

準備をしていただいた長野運輸協の皆さん、
ありがとうございました。この紙面を借り
ましてお礼申し上げます。